

# 江道（えんどう）・五十辺（いからべ）

この地区では、「頭川層」の特徴である石灰質砂岩が多く見られます。

## 五十辺の鍾乳洞

五十辺（いからべ）の白山池北側には、ごく小規模な鍾乳洞が7つあります。その中で一番大きなものは、2号洞で高さ173cm、幅185cm、奥行きは6mほどあります。内部には写真にあるように鍾乳石が見られます。

鍾乳洞は、一般的に石灰岩の層内にできます。この鍾乳洞は石灰岩の中にできたのではなく、石灰質砂岩の中にできたものです。国吉地区に分布する頭川層には、動物プランクトンの有孔虫化石や貝化石が含まれており、その石灰分が溶け出して鍾乳洞を形作っていきました。白山池（灌漑用のため池）の付近にだけ鍾乳洞ができたのは、このあたりにごく小規模な断層があり、その断層面に沿ってしみ込んだ雨水がこのような鍾乳洞を形づくっていったからだと考えられます。頭川層は、高岡市西部から氷見市にかけて分布しており、排水性も好いことから建設用の土として用いられてきました。氷見市や高岡市、射水市などの小・中学校では、グラウンドや植栽の表土として使われています。



※有孔虫化石の抽出法については、本HP「[化石や微化石から学ぶ](#)」を参照

## 五十辺の土砂採取場

鍾乳洞へ行く途中、日本海鉱業の土砂採取場があります。ここは「富山県貝化石肥料指定鉱床」となっており、大規模な土砂採掘が行われています。2006年6月8日付の北日本新聞で紹介された「ホタテ貝の密集貝化石」は、この採掘現場で発見されたものです。水平な層理面が数百メートルに渡って続く様子は、圧巻です。表土から、ホタテやウニの仲間やイシカケガイ、ウニの棘などを容易に見つけることができます。

この露頭は、三方切端となっているので、地層の奥行きや広がり立体的にとらえることができます。石灰質砂岩は、風化すると黒っぽく見え層理面がとらえにくいので新鮮な掘削面を観察させるとよいでしょう。

また、詳しく見ると、軽石の粒を含む「柴野層」に写真のように「クロスラミナ」と呼ばれるものを多数観察できます。これは、雨晴の大露頭のものと同じで堆積当時の水流の方向を示すものです。写真では、右側から左に水流があったと考えられます。



採掘場全景



採掘場の「柴野層」に見られるクロスラミナ



ウニの棘



採掘場の表土に見られる貝化石

## 江道（えんどう）の古墳群

高岡市江道地内の県道26号線沿いには、古墳時代末期に作られた「江道横穴古墳群」があります。地区内には、全部で15個確認されています。この古墳は、頭川層の石灰質砂岩に掘られたもので、古墳のある露頭を詳しく観察すると写真のような貝の破片を見つけることができます。簡単な素掘りの横穴が崩れなかったのも、石灰質砂岩であればこそと考えられます。

